

HPV ワクチン接種行動に影響を及ぼす知識・認知・感情要因

主観的規範、周囲接種者有無、HPV ワクチン一般知識の重要性

○上市秀雄¹・謝婧雅^{2, #}

(¹筑波大学・²ニフティ株式会社)

キーワード：意思決定、リスク認知、感情

Knowledge, cognitive, and emotional factors influencing HPV vaccination behavior

The Importance of subjective norms, surrounding immunization status, and general HPV vaccine knowledge

Hideo UEICHI¹, Jingya XIE^{2, #}

(¹Faculty of Engineering, Information and Systems, University of Tsukuba, ² NIFTY Corporation)

Key Words: Decision-making, Risk cognition, Emotion

目的

子宮頸がんのほとんどを予防することができる HPV (ヒトパピローマウイルス) ワクチンは、マスコミによる副反応報道により 2013 年 7 月に推奨中止となり、接種者が激減した (Shuto, et al, 2021)。しかし 2021 年 11 月の専門家会議で「HPV ワクチンの安全性に特段の懸念が認められない」ということが認められ、2022 年 4 月より積極的接種が再開された。本研究では、2013 年 6 月以前の HPV ワクチン接種推奨中止前接種者、2013 年 7 月から 2022 年 3 月までの HPV ワクチン接種推奨中止中の接種者、2022 年 4 月以降接種者、2018 年 11 月時点の未接種者、2023 年 2 月時点の未接種者の 5 群において、HPV ワクチンに関する知識、認知、感情等にどのような違いがあるのかを明らかにする。

方法

調査対象者 2018 年 11 月に HPV ワクチン接種が推奨される 15~20 歳の女性 500 名 (上市・謝, 2019)、2023 年 2 月に 15~25 歳の女性 1,582 名にインターネット調査を実施した (筑波大学システム情報系研究倫理審査委員会の承認済み)。なお接種不明者 442 名は分析から除いた。

質問項目 一般知識 10 項目 (子宮頸がん 4 項目, HPV ワクチン 6 項目)、最新知識 20 項目 (HPV 感染と子宮頸がん 8 項目, 有効性 4 項目, 安全性 5 項目, 副反応診療体制 3 項目) (厚生労働省, 2023)。上記知識は 2 段階評定 (0: 知らない~1: 知っている)。情報収集 5 項目 (有効性, 副反応情報などを集めている)、情報源 21 項目 (メディア 3 項目, 専門家 6 項目, 製薬会社 6 項目)、予期後悔 3 項目 (接種して副反応が出たとしたら後悔する; 上市, 2022)、副反応不安・リスク 4 項目、ワクチン有効性 3 項目 (公衆衛生に有効)、副反応無し 2 項目 (自分には生じない)、ワクチン接種コスト 2 項目 (接種費用高い)、ワクチン不必要 4 項目 (100% 予防できないので不必要)、主観的規範 5 項目 (家族は接種に好意的)、周囲接種者有無 2 項目 (接種者, 予定者がいる)、行動意図 1 項目 (接種したい)、行動苦慮 1 項目 (悩んでいる)、自治体等への要望 8 項目 (積極的に推奨してほしい)、クリティカルシンキング 15 項目 (証拠重視, 情報探索, 物事を客観的・多角的に検討; 上市・楠見, 2006)、その他要因 (上市・謝, 2019)。上記項目は 5 段階評定 (1: あてはまらない~5: あてはまる)。

結果

各要因の差異 各下位項目を合計し項目数で割ったものを従属変数、前述の 5 群を独立変数として一元配置分散分析を行った。その結果、知識は、一般知識、最新知識ともに未接種者は接種者よりも知識得点が低く、特に 2018 年 11 月未接種者が最も低かった (図 1)。情報収集、情報源、予期後悔、その他認知・感情要因に関しても、接種者 > 未接種者であり、いずれの場合も 2018 年 11 月未接種者が最も低かった (不安・リスク、不必要は、接種者 < 未接種者)。

接種行動に影響する要因 接種行動 (接種者 or 未接種者) を従属変数にしてロジスティック回帰分析を行った (表 1)。

その結果、接種意図より、主観的規範、周囲接種者有無、接種苦悩の影響が大きいことがわかった (正解率 80.2%)。

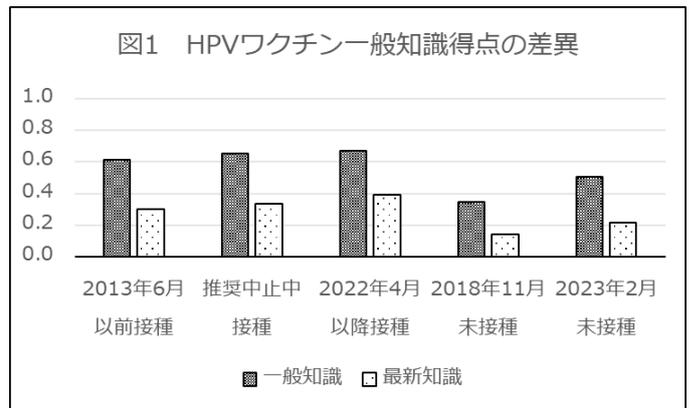


表1 ロジスティック回帰分析の結果 (正解割合80.2%)

	B	標準誤差	Wald	自由度	有意確率	Exp(B)
主観的規範	0.660	0.090	53.384	1	0.000	1.934
周囲接種者有無	0.605	0.068	79.015	1	0.000	1.831
接種苦悩	-0.578	0.080	51.984	1	0.000	0.561
接種意図	0.570	0.097	34.465	1	0.000	1.769
情報収集	0.418	0.076	30.512	1	0.000	1.518
一般知識 HPVワクチン	0.359	0.073	23.954	1	0.000	1.432
自治体等への要望	-0.280	0.093	9.051	1	0.003	0.756
ワクチン有効性	-0.260	0.095	7.550	1	0.006	0.771
副反応不安・リスク	-0.206	0.096	4.595	1	0.032	0.814
ワクチン接種不必要	-0.167	0.085	3.890	1	0.049	0.846

考察

未接種者は接種者よりも、HPV ワクチンに関する知識が少なく、あまり積極的に情報収集しておらず、副反応不安を感じ、不必要と考えている傾向がある。さらに接種行動には、主観的規範や周囲接種者有無などの、他者の影響が大きいことがわかった。ワクチン接種者を増やすためには、一般的知識のみならず他者の接種状況も提示し、主観的規範を高め、接種に対する悩みを低減させることが重要といえる。

引用文献

厚生労働省 (2023). HPV ワクチンに関する Q&A https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/hpv_qa.html (閲覧日 2023 年 4 月 27 日)
上市秀雄 (2022). 「後悔を活かす心理学」中公新書. 271p
上市秀雄・謝婧雅 (2019). HPV ワクチン接種行動意図に影響を及ぼす認知・感情的要因. 日心 83 回大会. 2AM-065.
Shuto, M., Kim, Y., Okuyama, K., Ouchi, K., Ueichi, H., Nnadi, C., Larson, H. J., Perez, G. & Sasaki, S. (2021). Understanding confidence in the human papillomavirus vaccine in Japan. *Human Vaccines & Immunotherapeutics*.